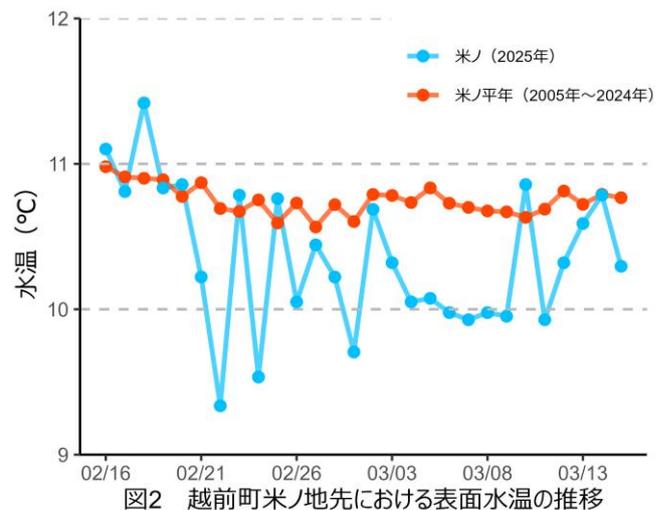
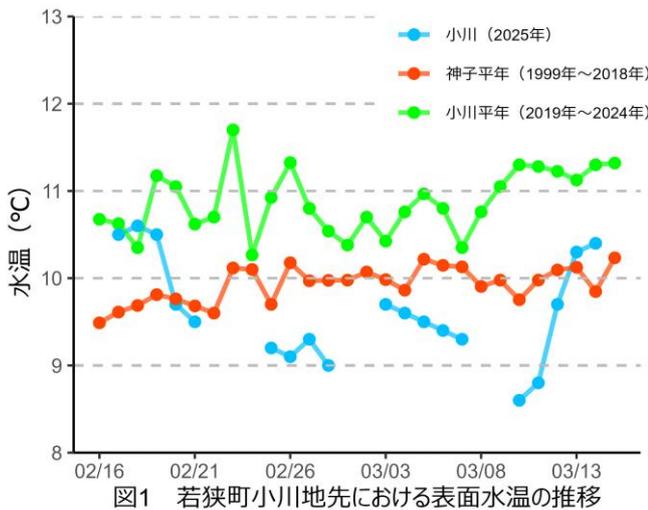




〔海の状況 (2/16 ~ 3/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 2月中旬は平年並み (±0.5°C程度) で推移したが、2月下旬から3月中旬にかけて、かなり低め (-1.5°C程度) からはなはだ低め (-2.0°C程度) で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 2月中旬から2月下旬にかけて大きな変動を繰り返しながら推移し、3月上旬から中旬にかけて、平年並み (±0.5°C程度) からやや低め (-1.0°C程度) で推移した。



〔若狭湾および周辺海域の海況：2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)と水深50 mでは、全体的に低めであった。水深100mでは、若狭湾沖に10°C以下の冷水塊が確認されたが、今年度は不明であった。水深200mでは、沿岸から沖合にかけて4°C以下の水域が広がっていたが、沿岸は6°C以上であったものの、沖合は不明であった。

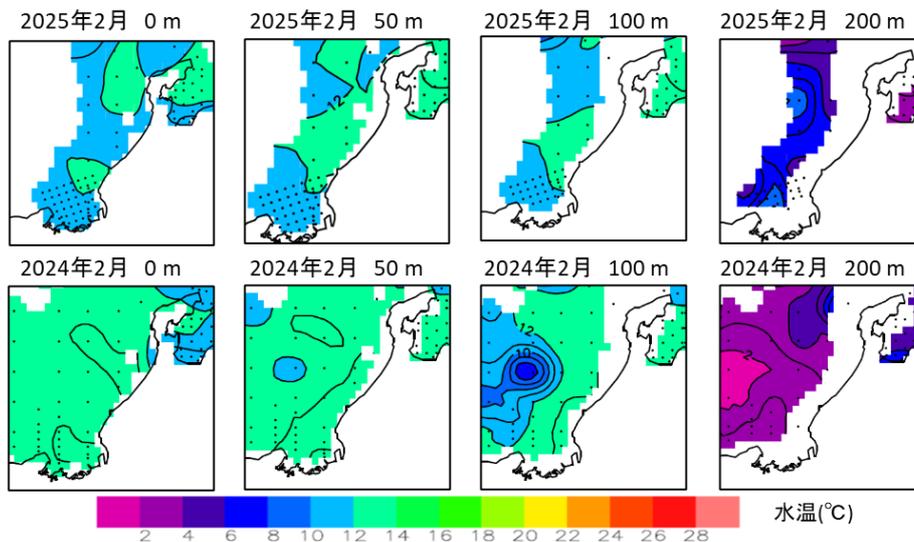


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

「越前がに」の漁模様

3月20日に終漁を迎えた今漁期（令和6年11月～令和7年3月）の「越前がに」漁模様をお知らせします。
○操業延日数は2,388日（前年2,575日）でした。

○漁獲量は、カタガニ（雄ズワイガニ）が251t（前年206t：前年比122%）、ミズガニ（雄ズワイガニ）が77t（前年59t：前年比131%）、セイコガニ（雌ズワイガニ）が184t（前年179t：前年比103%）でした。

○雌雄合計の漁獲量が500tを超えたのは平成24年度以来であり、現在の自主規制となってからは初めての結果です。漁業者による自主的な資源管理の取り組みにより、資源が回復した成果であると考えられます。

※データは福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。

（漁業管理グループ 元林 裕仁）

〔県内の漁模様：2月〕

2025年2月の県内の総漁獲量は263tで、前年同月を56t下回り、平年を188t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は59tで、前年同月を12t下回った。ヤリイカ、サワラ等が上回り、マイワシ等が下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は182tで、前年同月を13t下回った。その他カレイ等が上回り、アカガレイ等が下回った。

〔釣り、延縄、さし網、その他の漁法〕

漁獲量は22tで、前年同月を32t下回った。ヤリイカ等が上回り、ブリ類、ナマコ類等が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網 (kg)						底びき網 (続き) (kg)					
魚種名	2025年	2024年	平年	前年差	平年差	魚種名	2025年	2024年	平年	前年差	平年差
マイワシ	6,903	25,860	12,378	-18,957	-5,475	アカエビ	2,963	2,668	3,963	294	-1,000
アジ類	2,361	1,979	4,656	382	-2,295	その他エビ	1,343	1,616	5,415	-274	-4,072
マグロ類	1,352	3,868	3,823	-2,516	-2,471	その他	8,369	13,714	25,977	-5,345	-17,609
ブリ	2,846	1,175	1,452	1,671	1,393	合計	182,372	194,998	318,696	-12,626	-136,324
サワラ	29,981	27,450	30,660	2,531	-679	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
スズキ	2,894	867	3,881	2,027	-987	魚種名	2025年	2024年	平年	前年差	平年差
ヤリイカ	6,351	1,342	5,173	5,008	1,178	ブリ類	812	18,638	3,788	-17,826	-2,976
その他	8,814	9,308	13,572	-494	-4,759	(ハマチ)	268	6,625	891	-6,357	-623
合計	58,655	70,675	74,143	-12,020	-15,488	(ツバス)	539	11,996	2,776	-11,457	-2,237
底びき網 (kg)						タイ類	1,649	1,533	2,862	116	-1,213
魚種名	2025年	2024年	平年	前年差	平年差	アマダイ	797	1,038	2,157	-241	-1,360
(マダイ)	1,745	1,615	659	130	1,086	ヒラメ	405	399	1,209	6	-804
ヒラメ	881	1,342	2,013	-461	-1,132	カレイ類	553	826	2,956	-273	-2,404
カレイ類	110,270	118,851	181,639	-8,581	-71,369	ヤリイカ	2,485	1,067	3,008	1,418	-523
(アカガレイ)	80,294	98,848	155,308	-18,554	-75,015	タコ類	452	1,811	3,666	-1,359	-3,214
(その他カレイ)	29,976	20,003	26,331	9,974	3,645	ナマコ類	5,687	20,266	21,203	-14,579	-15,516
フグ類	1,814	1,986	720	-172	1,093	その他	9,193	8,052	17,238	1,141	-8,045
ハタハタ	608	2,744	28,776	-2,135	-28,168	合計	22,033	53,628	58,088	-31,595	-36,055
タコ類	675	1,124	3,227	-449	-2,552	全漁法 (kg)					
ズワイガニ計	55,450	50,952	66,965	4,498	-11,515	魚種名	2025年	2024年	平年	前年差	平年差
(ズワイガニ)	37,999	34,213	31,570	3,786	6,428	合計	263,061	319,301	450,927	-56,240	-187,867
(水ガニ)	17,451	16,739	35,395	712	-17,943						

※1 平年の値は2015-2024年の10年平均です。

※2 数値は小数点以下を四捨五入しています。

※3 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

〔近隣府県の漁模様〕

（漁獲状況…石川県：2月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：2月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：2月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：2月中旬～3月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…マイワシ4922t、カタクチイワシ28t、マアジ8t、ウマヅラハギ6t、メジ5t

京都府…定置網…マイワシ937t、カタクチイワシ33t、ブリ24t、マグロ類18t、サワラ16t

兵庫県…定置網…イワシ5.2t、アジ5.1t、マグロ301kg、サワラ133kg、ヤリイカ110kg

鳥取県…まき網…マイワシ9,714t、マサバ4,186t、マアジ31t、ウルメイワシ20t、カタクチイワシ6t

（漁場環境グループ 矢倉 卓磨）

今年度の福井県への大型クラゲの漂着について

2024年度は、6月から7月にかけて日本海への大型クラゲの大量流入が報告され、全国で過去5番目の確認数があり、2009年以来の大量漂着が懸念されました。今回は、今年度の福井県への漂着状況を取りまとめましたのでお知らせします。

○大型クラゲについて

大型クラゲは中国沿岸から朝鮮半島西岸にかけての海域で発生するとされています。大量発生が起こると、海流により対馬海峡を通過して日本海へ流入し、成長しながら東へと移動します。これまでの例では、対馬での確認から約1~2か月で福井県に到達しています。大量漂着が発生すると、定置網で1日に千個/網以上、底曳網で数百個/網の入網が見られ、大きな被害が発生します。2009年度には過去最大の漂着があり、本県の大型定置網で合計200万個体近い入網がありましたが、2010年以降は14年連続で大量漂着は発生していません(図1)。

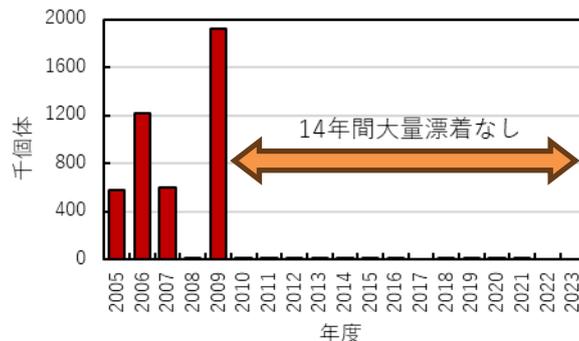


図1 年度ごとの大型定置網への入網数 (2005~2023年度)

○今年度の福井県での大型クラゲ入網・調査結果

今年度は6月24日に対馬で大型クラゲが初めて報告されました。福井県の定置網では約1か月後の7月21日に初めて確認され、11月までに計390個の入網がありました(図2)。これは過去と比較して入網数はかなり少ない結果となりました。

一方、底曳網では解禁直後の9月上旬の入網が多く(平均約70個体/網)、その後は徐々に減少して、11月以降は入網が見られませんでした(図3)。10月6~7日に実施した水中カメラによる調査では、水深約300mの海底に大型クラゲが沈んでいるのを確認し(図4)、分布密度は4.4個/haでした。これは過去の大量漂着発生時(7.3~14.3個/ha)よりは少ないものの、操業に時間がかかるなど支障が出ました。幸い、追加で流入するクラゲが少なく、海底に沈んだクラゲは1か月程度で分解され、調査から1か月後には入網は見られなくなりました。

県内への大量漂着が発生しなかった要因としては、沖合の流れが強かったことにより、大部分が沿岸部に近寄らずに沖合を通過したためと考えられています。全国的にも若狭湾以北では入網が少なく特殊な分布であったとされ、要因の解明や今後の発生動向への注意が必要とされています。

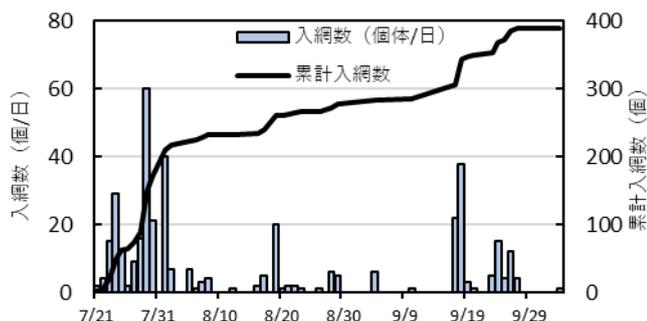


図2 今年度の大型定置網への入網数

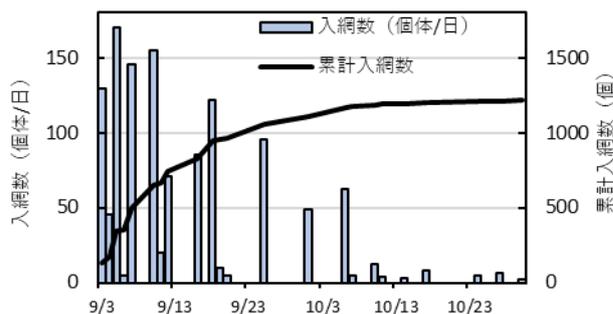


図3 今年度の底曳網への入網数 (標本船3隻分のデータ)

○おわりに

今年度は大量漂着が発生しませんでしたでしたが、状況によっては大量漂着の可能性もあったと考えられます。水産試験場では、今後も情報発信や調査に努めて参ります。また、本調査は漁業者の皆様のご協力の上に成り立っています。お礼申し上げますとともに、引き続きご協力をお願いいたします。



図4 海底に沈んだ大型クラゲ (水深約300m, 傘径約80cm)

(海洋資源研究センター 児玉 敦也)

「水試だより」が新しくなります

日頃より「水試だより」をご愛読いただきありがとうございます。現行の「水試だより」は、デザインと名称を変更することとなりましたのでお知らせいたします。

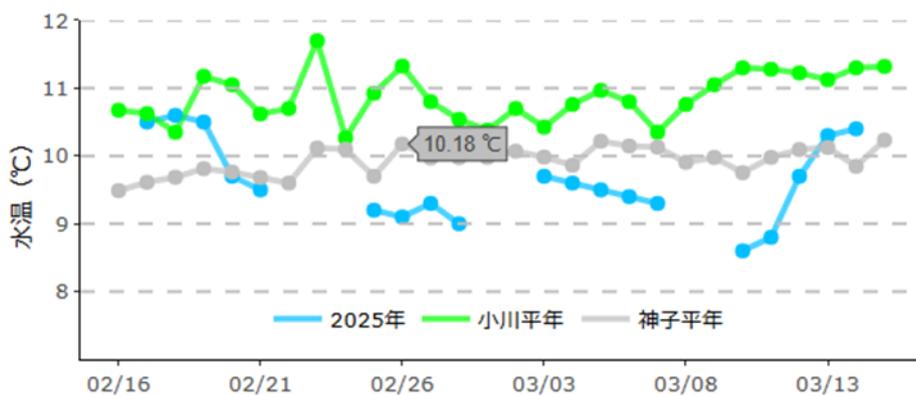
後続の情報紙は、海洋資源研究センターより「福井県漁海況情報」と名前を改めて掲載します。「水試だより」には掲載しきれなかった、より詳細な漁海況データを『動く表・グラフ』でご覧いただけるようになりました。「水試だより」第117号と同じ内容の「福井県漁海況情報」を試用版として掲載しておりますのでぜひご覧ください。

URLはこちらです。→ <https://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss/joho/gyokaikyou/index.html>

なお、本報の「今年度の福井県への大型クラゲの漂着について」のようなトピックは、来年度から企画先端研究部より発行されます。

【操作例】

(1) 若狭町小川地先における表面水温の推移



水温グラフは、マウスカーソルを合わせると各点の水温が表示されます。

② 定置網

表示 10 件

検索:

魚種	今年(t)	前年(t)	前年比(%)	平年(t)	平年比(%)
合計	58.7	70.7	83	74.3	79
サワラ	30	27.4	109.5	30.7	97.7
イワシ類	6.9	25.9	26.6	13	53.1
ヤリイカ	6.4	1.3	492.3	5.2	123.1
ブリ類	3.1	5.4	57.4	4.6	67.4

「今年 (t)」などの縦軸をクリックすると、データの並び順が変わります。

一度クリックすると昇順 (小→大)、もう一度クリックすると降順 (大→小) に並び替えられます。